

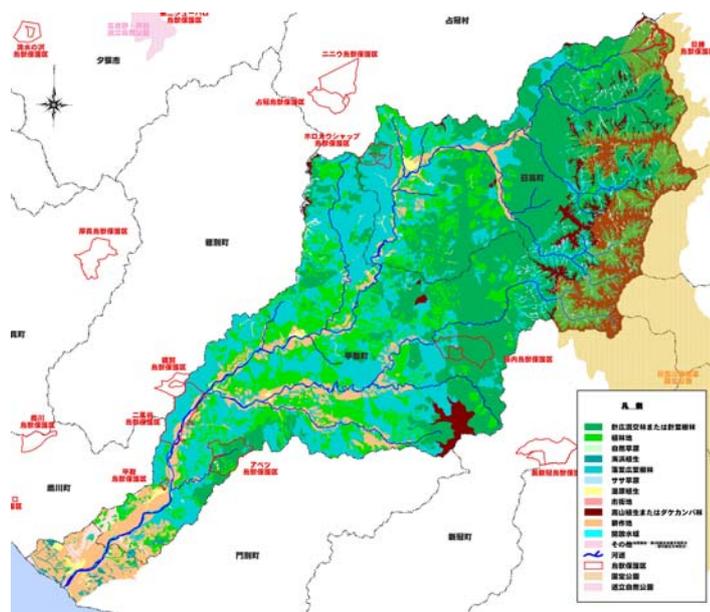
2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

流域の植生は、流域面積の約 83%を占める森林植生に代表され、その分布は、高山帯、亜寒帯・亜高山帯、ブナクラス域自然植生及び代償植生に区分される。標高約 1,000m 以上は高山帯となり、高山低木群落等が分布する。亜寒帯・亜高山帯植生は、これらの群落の下部にあり、標高約 500m ~1,000m 程度までの間にエゾマツ-トドマツ群落等が分布する。このうち、日勝峠付近のエゾマツ-トドマツ群落は、「沙流川源流原始林」として天然記念物に指定されている。標高約 500m 以下は、温帯、低山帯で、ブナクラス域自然植生のエゾイタヤ-シナノキ群落や、河川沿いのヤナギ低木群落等が分布する。さらに、上流から下流にかけて、カラマツを主体とする人工林が広く分布する。

河川周辺の植生は、上流は川幅も狭く、水際まで樹林地が近接し、中・下流では川幅が広がる。中・下流の堤内地は段丘が発達し、水田、畑地、牧草地等として利用されている。

流域に生息する動物としては、哺乳類ではキタキツネ、エゾシカ等が上流から下流にかけて広く分布する。鳥類は上流でアカショウビン、カワガラス等渓流や溪畔林に多い種がみられ、中・下流ではアオジ、カワラヒワ等ひらけた河川沿いに多い種やアオサギ、マガモ等水面を利用する種もみられる。両生類・爬虫類では、エゾサンショウウオ、エゾアカガエル等水辺から草原・樹林地を往来する種が生息し、昆虫類では、上流の高山帯に特別天然記念物のダイセツタカネヒカゲ等希少な種が生息する。中・下流では、アオゴミムシ等の河川沿いの環境で多くみられる種が生息している。魚類では、上流でオショロコマが、中・下流では、ギンブナ、ウグイ、フクドジョウ、イバラトミヨ等がみられ、サクラマス等が遡上するほか、北海道の太平洋沿岸のみに分布し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモが遡上する。



出典：現存植生図(第5回自然環境保全基礎調査)を基に作成
図 2-1 流域の植生図

【植物】

流域の植生は、上流域が山地林及び溪畔林を主体とする樹林地で、エゾマツ-トドマツ群落やエゾイタヤ-シナノキ群落等の自然林が分布する。これらの樹林地は、河川の水際付近まで分布し、林床植物はクマイザサ等が優占する。

中流域には山地斜面に分布する広葉樹を主体とする樹林地、段丘上に分布する畑地、牧草地等の耕作地及び人工林、河川沿いに分布するヤナギ等河畔林と水際の草原植生が分布する。山地斜面の広葉樹はミズナラ - エゾイタヤ林とカラマツ等人工林が多く、右岸では水際近くまで分布している。林床はミヤコザサ等が優占する。段丘上の耕作地の多くは牧草地で、イネ科牧草の牧草地が広がっている。河川沿いのヤナギ林は、支流の合流部付近などの砂州上や水面より 1~2m 高い河川沿い低地にみられ、オノエヤナギ等を主体とする高さ 10m 程度の高木林のほか、水際にはタチヤナギを主体とする低木林もみられる。草原としては、砂州上に成立した草本群落が主で、ツルヨシ、クサヨシ、シロバナシナガワハギ等が優占する。

下流域は、流域のほとんどが水田や牧草地で、河川敷地内に比較的自然性の高い環境が分布している。樹林地としては、段丘斜面に立地するミズナラ等の広葉樹林から、河川敷地内の比較的標高の高い箇所にもみられるヤナギ、ケヤマハンノキによる高木林、水際の低木林と、その標高や氾濫頻度により群落の高さが異なる。ヤナギ林はオノエヤナギが優占し、林床は比較的まばらでアキタブキ等がみられる。ヤナギ低木林は、水際まで生育しており、ときには沈水する。

高水敷は、本来ヤナギ林が成立できる標高で牧草地として利用されている箇所が多くみられ、その水際側にヤナギ林、ヤナギ低木林等の樹林地や乾性の草原が立地し、さらに湿地や後背水域または支流との合流部周辺にはヨシ、ツルヨシ群落等の抽水植物群落も分布する。

また、河道内には砂州等の自然裸地が多く分布し、ツルヨシ群落やヤナギ低木林が立地するほか、河口部においては海辺の砂丘地に多い草本群落もみられる。

重要種としては、ベニバナヤマシャクヤク、クロビイタヤ等が確認されている。

【哺乳類】

沙流川流域は、森林が多く、日高山脈とも連絡することから、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、キタキツネ、エゾシカ等が生息する。このうち、エゾヤチネズミ、エゾシカ、キタキツネは中・下流の河川沿いで多く確認されており、主要な生息地の一部であると考えられる。

重要種としては、カラフトアカネズミが生息する。

【鳥類】

沙流川流域は、上流でアカショウビン、カワガラス等山地や溪流に多い鳥類がみられる。

中・下流は、水田、畑地、牧草地等の土地利用がすすんでいるため、主に河川近傍の水田や畑地等において生息するムクドリ等が頻繁にみられる。

中流の山地の樹林ではエナガ、ハシブトガラが、中～下流の河川沿い樹林でアオジ、カワラヒワ等が、河川沿いの草原ではヒバリ、ノビタキ、ホオアカ等が、中州等砂礫地

ではコチドリ等の繁殖が確認されている。また、水面や抽水植物群落は、アオサギ、マガモ等の水鳥が餌場等として利用している。

重要種としては、クマタカ、ハヤブサ、クマガラ等が生息する。

【両生類・爬虫類】

両生類・爬虫類としては、エゾサンショウウオ、エゾアカガエル等が生息している。このうちエゾアカガエルは、卵塊が中～下流の後背水域や樋門排水合流部等流れの緩い箇所を確認されており、これらが本種の主要な生息地であることが考えられる。

重要種としては、エゾサンショウウオの生息が確認されている。

【昆虫類】

特別天然記念物に指定されているダイセツタカネヒカゲ等稀種の生息が上流域の高山帯で多く報告されている。中・下流域では、アオゴミムシ等河原や水域と関連が深い種がみられるほか、樹林地に多いエゾマイマイカブリ等が生息している。

重要種としては、ケマダラカミキリ等が確認されている。

【魚類】

上流は溪流で、その河床は主に岩盤であり、オショロコマ、ハナカジカ等が生息する。中・下流部は、上流に比べると緩やかで、河床は砂利も多くなり、瀬と淵が分布している。淵ではコイ、キンブナ、ウグイなど、瀬では、フクドジョウなどが生息する。樋門排水の合流部や合流部付近の流れの緩い箇所、砂州沿いのヨシやツルヨシ群落(水際部)等の抽水植物群落あるいは沈水したヤナギ低木林には、ウグイ類の稚魚やイバラトミヨが生息する。

また、サクラマス等が遡上するほか、下流部の細礫・粗砂の河床はシシャモの産卵床となっている。

重要種としては、スナヤツメ、ウナギ等が確認されている。

【底生動物】

上流部では、ヒメヒラタカゲロウ等清冽で流れが速い環境でみられる種が確認されている。中・下流部では、平瀬においてエルモンヒラタカゲロウ、アカマダラカゲロウ、キタシマトビケラ等が多く確認され、早瀬においてキタシマトビケラ、コガタシマトビケラ等が多く確認された。淵では、ヒラマキミズマイマイ、スジエビ、クシゲマダラカゲロウ等が生息する。ワンド、抽水植物、沈水したヤナギ低木林等流れの緩い箇所では、ヒラマキミズマイマイ、シマイシビル等が生息する。



写真 2-1 サクラマス(ヤマメ)

写真出典:北海道開発局



写真 2-2 シシャモ

写真提供:鶴川町

2-2 河川の自然環境

1) 上流部

最上流部の河床は岩盤が主で谷底は狭く、樹林が水際まで分布する。やや下流になると、段丘地形がみられ、河相は溪流で、岩盤等で構成され、渓谷等が形成されている。

植生は、山付部の河岸や隣接地にエゾマツ-トドマツ群落、エゾイタヤ-シナノキ群落及び針広混交林等がみられ、哺乳類はキタキツネ、ヒグマ、エゾシカ等が生息し、鳥類では、クマタカ、オオタカ、ハイタカをはじめアカショウビン、カワガラス等山地の樹林や溪流に生息する種がみられる。両生類・爬虫類ではエゾサンショウウオが、昆虫類では、高山帯においてダイセツタカネヒカゲ等希少な蝶類が生息している。魚類ではサクラマスが遡上するほかオショロコマ、ハナカジカ等が生息している。底生動物ではヒメヒラタカゲロウ等流れが速く清冽な環境でみられる種が確認されている。



写真 2-3 沙流川上流部

写真出典：北海道開発局

2) 中流部

中流部は、河岸段丘が発達し、上流部に比べ河床勾配も緩やかになり、流れが穏やかで河床堆積砂利も多くなり瀬と淵が見られるようになる。

周辺植生は、段丘上の平地が畑地、牧草地、水田として利用されているほか、山地斜面にはミズナラ林やカラマツ植林が分布する。河道内の植生は、水際まで斜面のミズナラ - エゾイタヤ林が分布するほか、砂州や水面より 1~2m 高い河川沿い低地にオノエヤナギ、タチヤナギ等からなるヤナギ林やヤナギ低木林が分布し、一部はときに沈水する。このほか、砂州上にはクサヨシ、シロバナシナガワハギ等からなる草本群落がみられる。哺乳類ではキタキツネ、エゾシカ等が生息し、鳥類では、オオタカ、ハヤブサをはじめ、樹林でエナガ等が、草原ではホオジロが、河川等水域ではカワセミ、カワアイサが生息している。両生類・爬虫類では、エゾサンショウウオ、エゾアカガエル等が林縁部や沢地等で確認されている。昆虫類では、河川周辺に多くみられるアオゴミムシのほか、樹林地に多いエゾマイマイカブリ等もみられる。魚類では、ダム湖でコイやギンブナが、河川ではフクドジョウ、イバラトミヨ等が生息し、サクラマス等が遡上する。底生動物ではヒメヒラタカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ等が生息している。



写真 2-4 沙流川中流部

写真出典：北海道開発局

3) 下流部

下流は高位段丘がみられ、右岸側主体に堤防が続き、河口付近は扇状地形で両岸に堤防が設けられている。河床部は、河床堆積砂利が多くなり瀬と淵が連続する。周辺の段丘面は水田、畑地、牧草地として利用されており、自然性の高い植生は、河道付近に多くみられる。

高水敷は、採草地、放牧地として利用されており、その河道側にヤナギ高木林、低木林等の樹林地やオオイタドリ、オギ等の乾性の草地が分布し、さらに湿地や後背水域または支流との合流部周辺や樋門排水周辺にはヨシ、ツルヨシ群落等の抽水植物群落が分布する。また、これらの湿地、樹林及び水際に隣接して砂州等の自然裸地が多く分布し、ツルヨシやヤナギ低木林が立地するほか、河口部においては海辺の砂丘地に多い草本群落もみられる。

哺乳類ではエゾヤチネズミ、カラフトアカネズミ、キタキツネ、エゾシカ等が生息し、鳥類では、オオタカ、ハイタカをはじめ、河川沿い樹林でアオジ等が、河川沿いの草原ではヒバリ、ノビタキ等が、中州等砂礫地ではコチドリ等の繁殖が確認されている。また、水面や抽水植物群落は、アオサギ、マガモ等の水鳥が餌場等として利用している。両生類・爬虫類では、エゾアカガエルの成体や卵塊が、後背水域や樋門排水合流部等流れの緩い箇所を確認されており、これらが本種の主要な生息地であることが考えられる。昆虫類ではアオゴミムシ等河原や水域と関連が深い種がみられるほか、樹林地に多いエゾマイマイカブリ等が生息している。魚類は、淵ではコイ、キンブナなど、瀬では、カワヤツメ、ウキゴリなどが生息するほか、ワンド、樋門排水の合流部やその緩流域、抽水植物群落あるいは沈水したヤナギ低木林には、ウグイ類の稚魚やイバラトミヨが生息する。また細礫・粗砂の河床はシシャモの産卵床となっている。底生動物は、平瀬においてエルモンヒラタカゲロウ、キタシマトビケラ等が多く確認され、早瀬でもキタシマトビケラ等が多く確認された。淵やワンド、抽水植物、沈水したヤナギ低木林等流れの緩い箇所では、ヒラマキミズマイマイ等が生息する。



写真 2-5 沙流川下流部

写真出典：北海道開発局

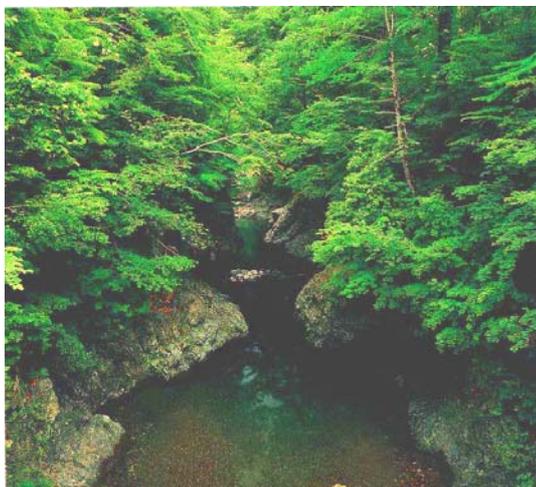
2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 景観・景勝地

中・上流部は、渓谷地形と両側を覆う森林美、幌尻岳、チロロ岳、貫気別山の山岳景勝地などの自然景観と二風谷ダムにより創出された湖景観で構成される。特に、沙流川源流原始林は、日高山脈襟裳国定公園の一部で天然記念物に指定されており、このほか幌尻岳のセツ沼カール、紅葉や深緑の中を落ちるサンゴの滝、チロロ峡の峡谷、美しい絵画を思わせる轟ガロウ、切り立った断崖が続く日高竜門、深緑の中水音を響かせる仁世宇ガロウ、スズランの群生地などが有名である。

にぶたに湖の右岸には、アイヌの人々の伝説にもなっているオプシヌプリ(穴があいている山)があり、夏至の日の夕方にはオプシヌプリの穴に太陽が沈む光景が見られる。

中・下流部は、朝霧に浮かぶ遠くの方山々を背景に牧歌的な田園風景が広がり、このほか市街地の街並み、河口の海岸景観、親水性に富んだ水際空間などで構成される。



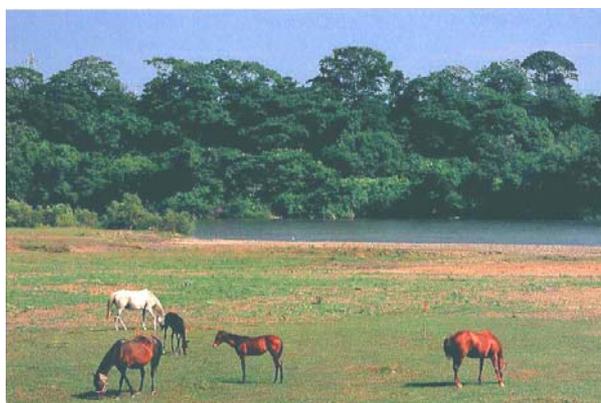
日高町
緑の回廊・千呂露峡



平取町
スズランの群生地



平取町
オプシヌプリ



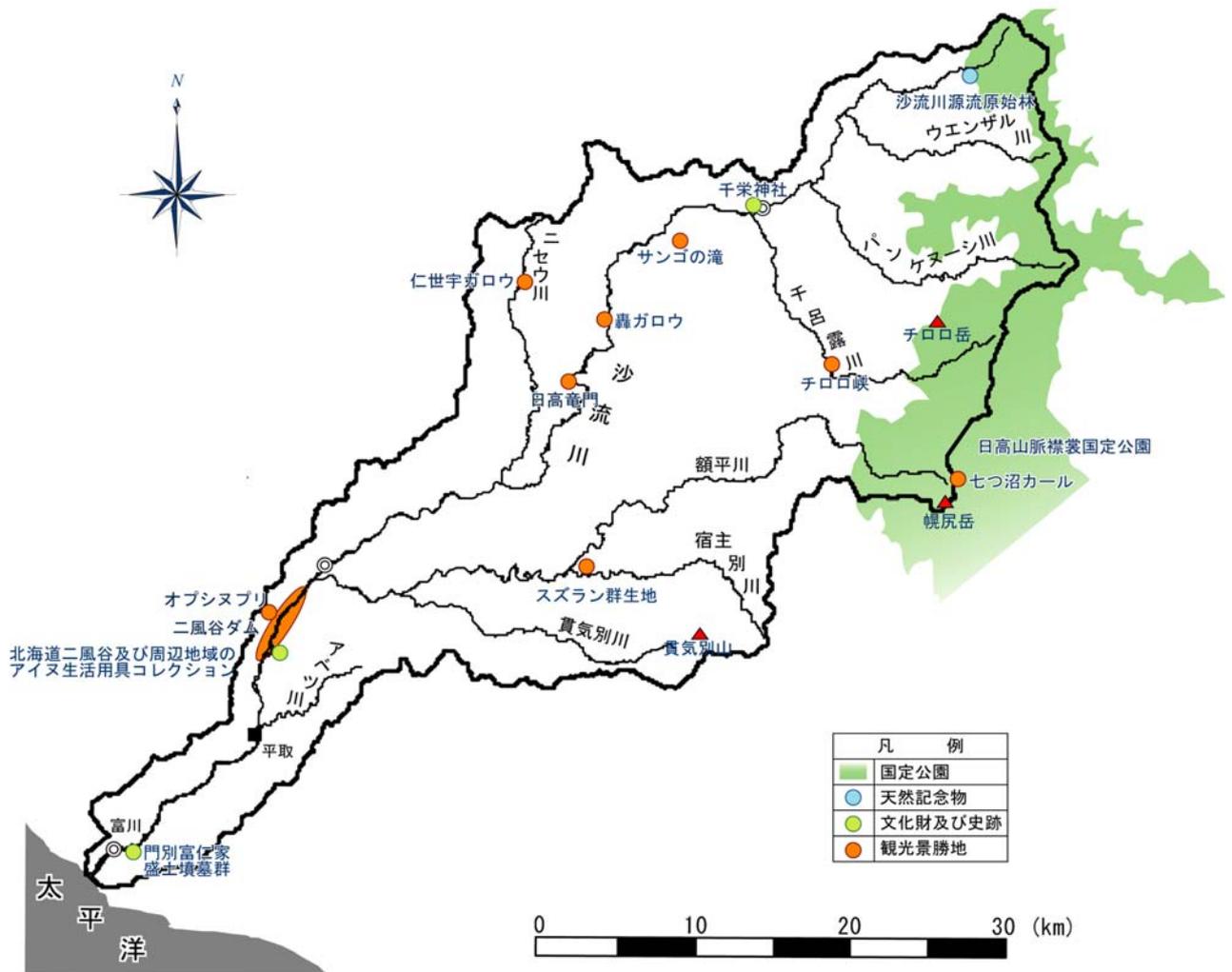
門別町
優駿の里
写真出典:北海道開発局

(2) 文化財及び史跡

表 2-1 沙流川流域の指定文化財の現況

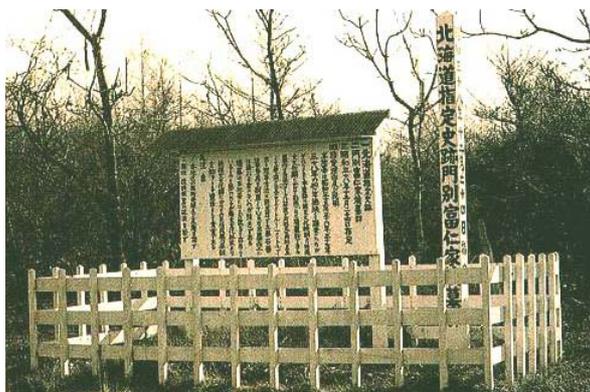
種類	名称	所在及び指定年月日	概要
国指定	【天然記念物】 沙流川源流原始林	日高町 昭和 45 年 12 月 4 日	日高町市街地から上流側へ 30km 程の区間の沙流川両岸一帯のトドマツ、エゾマツを主としたダケカンバ等の樹林地帯であり、北海道冷湿帯上部の代表的な原生林とされている。また、エゾシカ、ナキウサギ等の動物の生息が確認されている。
	【重要有形民族文化財】 北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション	平取町 平成 14 年 2 月 12 日	萱野茂氏が二風谷を中心に収集された資料で、由来が比較的明確であり、生活用具が諸分野の全般にわたって網羅的に収集されており、伝統的な暮らしの全容や地域の特徴を知ることができる。
	【重要無形民族文化財】 アイヌ古式舞踊	平取町 昭和 59 年 1 月 29 日	北海道一円に居住しているアイヌの人々により伝承されている芸能で、祭祀の祝宴等、様々な行事の際に踊られるアイヌ独自の振興を根ざす歌舞で、その様式は極めて古能をとどめ、芸術的な価値が非常に高いものとされている
道指定	【史跡】 門別富仁家盛土墳墓群	門別町 昭和 38 年 12 月 24 日	門別町市街地より西北に約 40km 離れた標高約 50m の段丘上にある墳墓群で、縄文晩期より続縄文の文化期にかけて形成されたものである。墳墓の直径は 1m 程度の円または楕円形をしており、深さは 0.5～1m 程度であり、その時代の先住民族らの葬制を知る上で非常に重要なものである。
町指定	【有形文化財】 千栄神社「本宮」	日高町 平成元年 6 月 14 日	大正 10 年、住民の浄財と奉仕により建築された。一間社流れ告様式による日高唯一の本格的木造社寺建築物。
	【無形文化財】 ユーカラ(英雄叙情詩) カムイユーカラ(神謡) ウェペケレ(民謡)	平取町 昭和 59 年 4 月 17 日	アイヌ民族無形文化財の中で、古くから伝承されてきた極めて価値の高い文化遺産であり、これを守り後世へ語り継ぐことを目的に町指定し、合わせて保持者を確認する。保持者故西島てる、故木村きみ、故黒川きよ、故川上まつ子。

出典： 沙流川水系河川環境管理基本計画 基本資料
北海道市町村勢要覧（平成 15 年）
日高教育局ホームページ



出典：沙流川河川環境マップをもとに作成

図 2-2 観光景勝地等位置図



富仁家墳墓群・北海道指定史跡(門別町史)



沙流川源流原始林
写真出典：鶴川沙流川治水史

2-4 市民活動

近年、多くの市民団体等の活動が盛んに行われるようになってきている。こうした状況を背景として、沙流川流域においても、「沙流川愛クラブ」によるごみ拾い、植樹活動等が行われ積極的に参加する人々が増えている。また、「二風谷ダム流域治山・治水連絡協議会」が主催する「自分でできる森づくり」においても植樹活動等が行われており、環境教育を通して身近な自然を学ぶ活動が着目されている。



沙流川と共生する町づくり講演会



自分でできる森づくりの植樹活動



写真出典:北海道開発局室蘭開発建設部

2-5 自然公園等の指定状況

沙流川流域は、自然環境に恵まれた地域は数多く存在しており、これらを保護、保全、管理することにより、後世に残し伝えていくうえで指定されている。

沙流川水系の自然公園等の法令指定状況は、以下のとおりである。

(1) 鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護区

1) 指定理由: 森林鳥獣生息地の保護区

名称: 日勝	沙流郡日高町所在	877ha	平成 2.10.1 ~ 平成 22.9.30
名称: アベツ	沙流郡平取町所在	967ha	平成 15.3.31 ~ 平成 34.9.30
名称: 二風谷	沙流郡平取町所在	1,296ha	平成 9.10.1 ~ 平成 19.9.30
名称: 穂別	勇払郡穂別町所在	447ha	平成 15.3.31 ~ 平成 34.9.30
名称: ホロカウシャップ	沙流郡日高町所在	562ha	平成 15.3.31 ~ 平成 34.9.30
名称: 振内	沙流郡平取町所在	1,172ha	平成 15.3.31 ~ 平成 34.9.30

出典: 平成 16 年度鳥獣保護区等位置図

2) 指定理由: 身近な鳥獣生息地の保護区

名称: 平取	沙流郡平取町所在	55ha	平成 13.10.1 ~ 平成 23.9.30
--------	----------	------	-------------------------

出典: 平成 16 年度鳥獣保護区等位置図

(2) 国指定天然記念物

名称: 沙流川源流原始林

日高市街から、東北東に約 30km の地点の両側一帯に位置する。トドマツ、エゾマツを主とし、ダケカンバ等も交える。北海道の冷温帯上部の代表的原生林。エゾシカ、ナキウサギも生息している。

(3) 国定公園

名称: 日高山脈襟裳国定公園

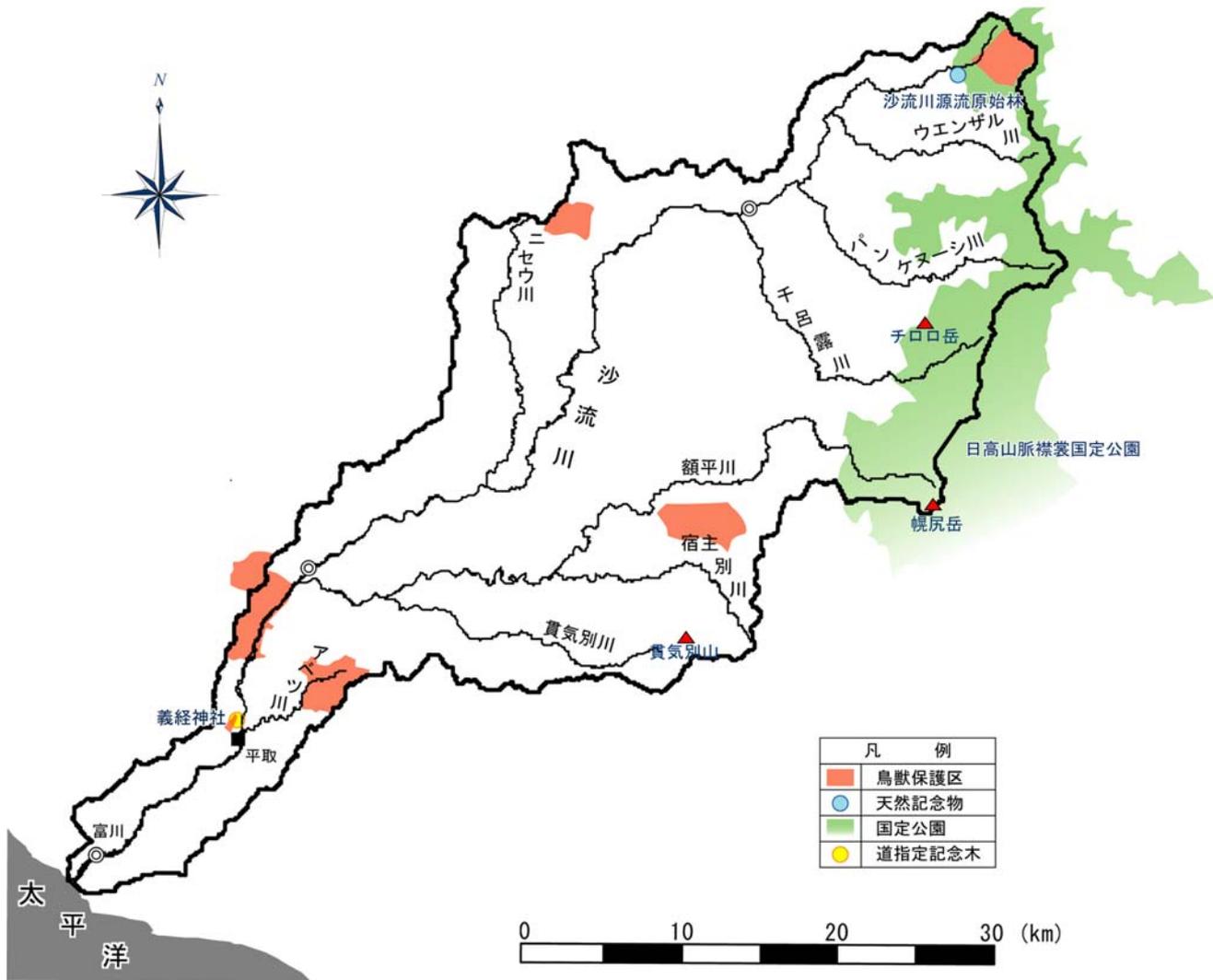
日高山脈襟裳国定公園(昭和 56 年 10 月 1 日)は、北海道中南部の標高 1,500 ~ 2,000m 級の峻険な褶曲山脈である日高山脈と襟裳岬一帯の面積約 103,447ha の範囲で、高山植物や発達した針葉樹林及びダケカンバ林等自然性の高い植生が分布し、エゾヒグマ、エゾナキウサギ、高山チョウのカラフトルリシジミ等多くの野生動物が生息している。

(4) 道指定 記念保護樹木

義経神社の栗

信仰対象の有無: 信仰対象あり。

保護制度指定: 自然環境保全地域



出典：平成 16 年度鳥獣保護区位置図をもとに作成

図 2-3 自然公園等の指定状況